

御礼

秋季審査会につきまして、ご審査ありがとうございました。

昨年 of 怪我から、ようやく苦しい一年間が終わったという心境で、合格させて頂いた嬉しさを噛み締めているところで、

今回の審査にあたっては、真剣による個人演武の練習が十分に積めていないということが、大きな不安の一つでしたが、前日の個人練習時に時間とご指導を頂いたことで、不安を薄めることができました。

審査中の演武につきましては、始まった段階では、審査員として他の受験者を審査したこともあり、集中力は下がっていたと思います。いつも注意をしていた、抜き付けで柄が袖に入らないようにすると、一本目の抜き付けでは意識が抜け落ちてしまっており、柄が袖に入ってしまった非常に動揺してしまいました。ただ、今回に限って言えばその動揺で緊張感のスイッチを入れることができました。

個別の業への反省点につきましては、多々ありますが、この審査会に向けての稽古や審査会をとおして考えたことは、心の持ち方や形のことに比べ、業の理合に則った間合いや拍子に対しての意識が足りなかったということです。今後は、新たな業の習得に励む事はもちろん、既に教えて頂いた業についても、さらに深く理解できるように精進したいと思えます。また、ゆくゆくは指導者となれるよう、指導の仕方等についても学ばせて頂きたいと思えます。

繰り返しとなりますが、館長、師範に置かれましては、福岡県武道大会が終了して間もなく、大会の事後作業などで大変お忙しいなか、今年二度目の審査会を開催して頂き、また厳しくも温かいご指導、ご審査を頂き、誠にありがとうございました。両先生のご指導のおかげで、今回は合格を頂くことができましたが、段位・免状等は師から修業の成果を認可された大切な証であると同時に、あくまで目安であり、通過点であると考え、自信と謙虚さを持って稽古に励みたいと思います。引き続きのご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成三十年十一月二十七日

田北 健三